

- 地域を知り、課題を知り支えあえる関係性が大切だと感じた。
- 人口の視点が興味深かった。当法人は過疎地域に所在するため、その特性を踏まえて取り組む必要があると感じた。
- 地域とのかかわりをどう構築するか考えていたため、「どう関わるか」ではなく「利用者にとって
は生きがい」「地域にとっては活性化」というWIN×WINのことを模索したい。
- 地域課題があるところに事業所や企業が関わっていくプロセスがもっと詳しく知りたいと感じた。
- 地域を知り、課題を知り支えあえる関係性が大切だと感じた。
- 多様な生きづらさがある方の、ニーズに寄り添ったさまざまな取り組みが刺激になった。
- 地域共生社会への取り組みは3年前に開始し「居場所づくり」「健康づくり」「地域行事づくり」
など実践しているが、今後はコロナの影響もあり新しい在り方を考えなければならないと感じた。
- 地域課題をどのように把握していくのか、どのようにかかわり始めるのか、課題は多かったため、
事例がとても参考になった。
- 施設周辺の互助・共助の状況を見ると、地域内での協力体制が取れているところでは活発な活動が
見られる。ポイントとは活動を牽引する人材であると感じた。
- 事例は自法人にない発想の取り組みであった。介護事業所でもいろいろな地域活動ができることに
気づき、さまざまな可能性を感じた。